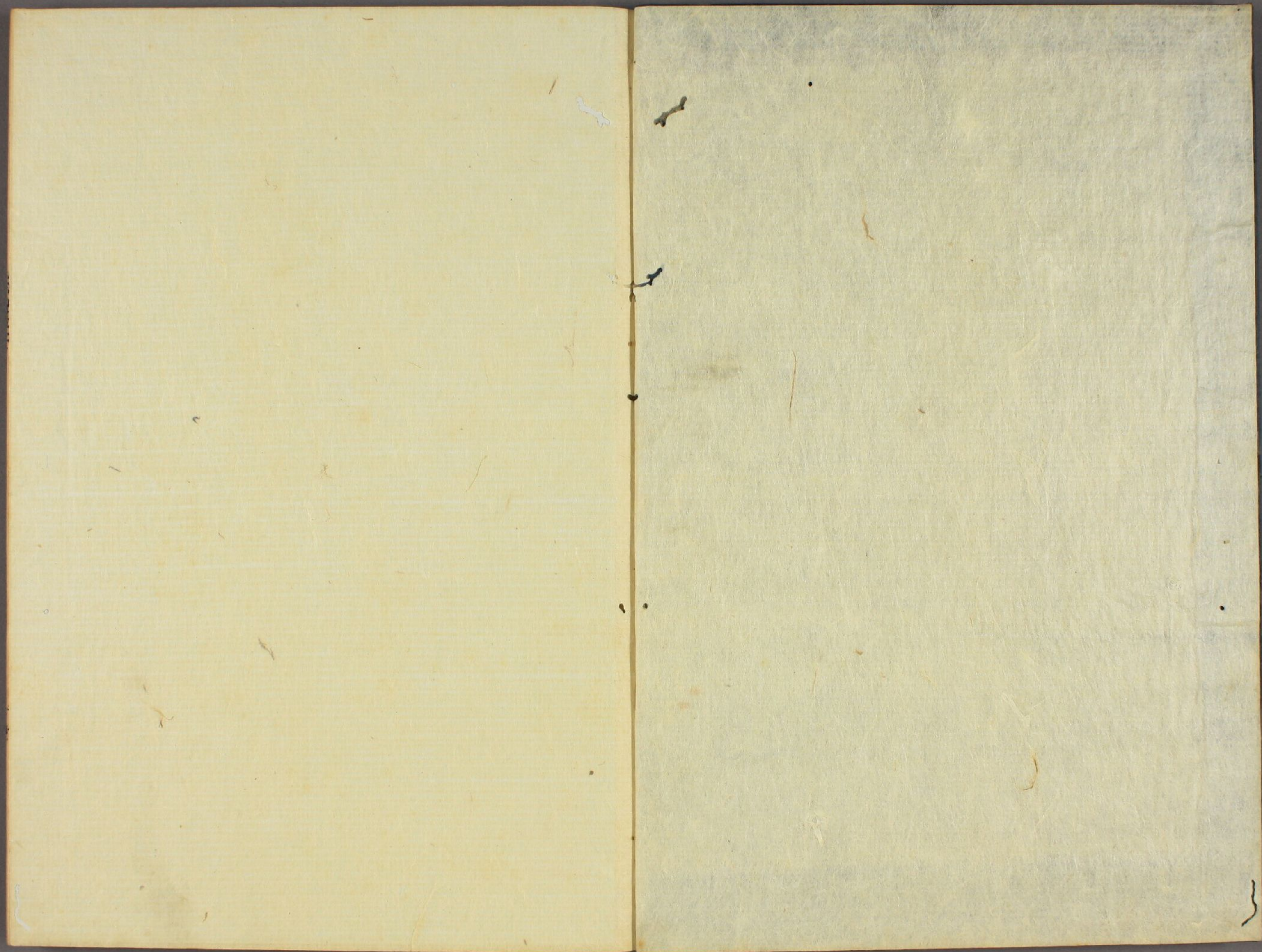


机右鈔
三

机

中村俊定文庫
文庫 18
1015
3







松石抄第三

知行上

千代古道

穢

暖家

後撰上

暖家の御書松井は此代の古道跡なり

後白河院極楽寺におりるに約引乃

引引けは徳とくらのなるよ

中月約

新撰中

中月約の御書松井は此代の古道跡なり

子日松

後撰上

子日松の御書松井は此代

芥河

新撰上

芥河の御書松井は此代

竹寺

新撰上

竹寺の御書松井は此代

三月廿八日源頼定朝臣の御書

松井の御書



花

木才三

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

千賀電

信

後法探二

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

後法探二

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

後法探二

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花

木才

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり

花

木才

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

千賀電

信

後法探二

花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり
花は誠の道徳の象徴なり

木才三

二

朱雀院此門布引此滝宮ん世ん
又月の七此日たつちうていつのち
つりつりつり人い方うまをひ
ころいふれ

日
ゆめてささる布とさるあふやと六世だ

楊梅盛

金重
これ河を海の事や布をさるる後布引此滝

とん

布引の滝ゆく

新と那中
我世とささる日とゆは後の滝といはすき

行子

後を那中
ゆめた教やううもあけ月ささる布引乃ゆ

後松

日
ふ娘た家の橋よりけりさる布や滝乃ゆ

後松

新後を那中
津乃國の生思河乃水とささる布引此滝

春松

天川

仙人

山姥

山田

橋松 壬午

山姥橋 壬午

鷺 月

橋 月

藤 月

呼子鳥 月

船波 月

麻 月

尾上萩 月

尾花 月

お茶 月

山田の滝も秋をに鮮文て生思行なり云ふ也 春松

山姥た教やうもあけ月の滝乃ゆこれ橋乃初花 後松

白波と初花とてや當たけり人々も布引の滝 日

布引の滝乃ささる人々もあけお茶 後松

此れ風を吹くもあけお茶とさる布引乃滝 源通海

布引の滝乃ささる人々もあけお茶 後松

布引の滝乃ささる人々もあけお茶 後松

新橋と尾上此お茶とさる人々もあけお茶 後松

風流う尾むうこれ布引の滝乃ささる人々もあけお茶 後松

お茶らぬわのお茶とさる人々もあけお茶 後松

河 日 水二滝の... 布引の滝... 竹取

松 日 不... 松尾... 布引の滝... 滝

松 日 布引の滝... 滝

豊 日 入... 滝... 滝

音羽 滝 城 音羽滝... 滝

時 日 音羽... 滝

音 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

村中... 滝

おけり

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

松 日 音羽... 滝

越

日

喜相河原の白雲の... 越

御陽

日

流るる喜相の心... 御陽

寄福

日

河原のくさ... 寄福

卯丸

日

卯丸の... 卯丸

柳夜虫

日

喜相の川... 柳夜虫

富

日

喜相の... 富

橋

日

夕... 橋

志

日

喜相の... 志

志

日

喜相の... 志

志

日

喜相の... 志

行

日

喜相の... 行

只

日

喜相の... 只

橋

日

喜相の... 橋

小

日

喜相の... 小

二階... 橋

大原... 橋

大原... 橋

大原... 橋

ゆり... 橋

小松原

橋

大原... 小松原

三系... 小松原

喜相... 小松原

及のりてはつりつり

行香

後送新

世とて心は枯枝と我れく小松原のむき道

後藤補

や

日

小松の栢とてははしとてまよふまよふとて

お高花

はか果はちまひたりけり阿村は松と

人れまなまをさるふとつりつり

新

相とて小松原とてのむきけとてまよふ

お高花

徳富朝臣大原野とてつりつり

心もたつちまひとてつりつり

けり人のつりつり

なまよふまよふとてつりつり

斗つちとてつりつり

や

新

おとつちとてつりつり

徳富

大原野とてつりつり

はつりつり

柳

新

世とて心は枯枝と我れく小松原のむき道

後藤補

河野

後

小松の栢とてははしとてまよふまよふとて

お高花

橋

後

大原野とてつりつり

徳富

麻

同

世とて心は枯枝と我れく小松原のむき道

後藤補

町

後

おとつちとてつりつり

徳富

松原

外

おとつちとてつりつり

徳富

林

長味

林と小川の合流する所の水やその水

後成

子曰

拾遺

子曰小川の合流する所の水やその水

定家

将

五本

山将の人の水や小川の合流する所の水

源盛

苑

理存

小川の合流する所の水やその水

小寺

蘇陀

五本

小川の合流する所の水やその水

光俊

尾室

日

竹末の子の合流する所の水やその水

為家

炭毫

日

小川の合流する所の水やその水

長久

宮本

日

宮本の合流する所の水やその水

日

車

日

小川の合流する所の水やその水

為家

恙菜

日

恙菜の合流する所の水やその水

元博

小蔵

日

若

日

夕陽の合流する所の水やその水

日

糸在の合流する所の水やその水

糸在の合流する所の水やその水

糸在

峯

日

山と小川の合流する所の水やその水

朝云

日

山と小川の合流する所の水やその水

大井河

日

大井河の合流する所の水やその水

山と小川の合流する所の水やその水

山と小川の合流する所の水やその水

山と小川の合流する所の水やその水

登道

山と小川の合流する所の水やその水

日

紅葉

雄倉のあまのつらつらと南に流るる
日暮の人のつらつらと秋をたぐと
わくわくとしてつらつらとさきさき
造て又の日暮をたぐつらつらとして
とせつらつらとつらつらとして

秋を

雄倉

七重八重の花はさきさきと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

野薄

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

高

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

雄倉のあまのつらつらと南に流るる
とせつらつらとして

日暮の人のつらつらと秋をたぐと

雄倉

わくわくとしてつらつらとさきさき

雄倉

秋を

雄倉

七重八重の花はさきさきと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

秋を

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

少老の秋はつらつらと秋をたぐつらつらとして

雄倉

雄倉

雄倉

名

日 葉をさするらるる葉をさする葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

柳

日 葉をさするらるる葉をさする葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

名

日 小倉の松の葉の葉の葉の葉の葉の

好 日 小倉山麓の指し宿の跡に於てあると云ふ

推栄 日 下宿の跡に宿し小倉山麓に於てあると云ふ

萩登 日 初宿の跡に宿し小倉山麓に於てあると云ふ

水石月 日 小倉山麓の水石に於てあると云ふ

谷川橋 日 小倉山麓の谷川に於てあると云ふ

芳名 日 小倉山麓の芳名に於てあると云ふ

小野山 同 有二三戸 醍醐ノ中 一可ハ教ハ兼依テテ得

小野と云ふより往つたりつり河原に於て

と云ふ

酒 日 小倉山麓の酒に於てあると云ふ

酒 日 小倉山麓の酒に於てあると云ふ

教忠初宿の跡に於て又の年にも初宿の
小野からあると云ふと云ふと云ふと云ふ
物陰一つりつりつりつりつりつりつり
日暮 小倉山麓の日暮に於てあると云ふ

為飛初宿の跡に於て又の年にも初宿の
又此日これよりあると云ふと云ふと云ふ
小倉山麓の跡に於てあると云ふと云ふ

新 日 小倉山麓の新に於てあると云ふ
知也 日 小倉山麓の知也に於てあると云ふ
松 日 小倉山麓の松に於てあると云ふ

氷

新登云

下より氷をたのむは清沙のたれをたふす

源仲公

楊

修長

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

任時

茹

昇下

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

左官

炭

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

後成

出

修長

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

後成

局

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

藤原

町

新登云

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

花後

葛

修長

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

長久

蟹

新登云

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

鴨

助

新登云

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

柳

菴

新登云

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

家

雲

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

宗

虎

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

人

おん

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

後

凡

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

後

車

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

因

推

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

件

樹

日

柳の葉をたのむは清沙のたれをたふす

後

おん

とく

宝八帖

日

よのよの葉をよのよの葉にまじりてはなはた

水原

萩

未

炭をたきしりて小神の心を養ふは人の心

信濃

花

日

よのよの花をよのよの葉にまじりてはなはた

水原

梅

日

梅の花をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

田早苗

日

里人の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

秋草

日

炭をたきしりて小神の心を養ふは人の心

信濃

長庚

日

高橋の宿をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

小神

日

よのよの神の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

小神

日

よのよの神の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

若返

日

若返の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

若返

日

若返の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

水海

未

水海の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

坂

日

坂の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

宮本原

日

宮本原の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

越後の小神の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

小野

信濃

よのよの神の心をよのよの葉にまじりてはなはた

よのよの神の心をよのよの葉にまじりてはなはた

可なり

全案

信濃の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

芦

未

芦の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

手

日

手の心をよのよの葉にまじりてはなはた

信濃

松 檜

日 妻 山嶺より小野に流る松と青き木と一と云ふ所 松 杉

湖沼に生ずるも青き木と云ふ所より松と杉と

此方へ松と杉と云ふ所より松と杉と

月夜新葺の松と杉との木は松と杉と

と云ふ所より松と杉と云ふ所より松と杉と

雲

鳥考

任家松の小野と云ふ所より松と杉と

松 杉

修善寺

新六

山嶺より小野に流る松と青き木と一と云ふ所

松 杉

小野井

日

豊定寺新葺の松と杉との木は松と杉と

天水

鳥考

小野井より天水と云ふ所より松と杉と

松 杉

世より流る松と杉と云ふ所より松と杉と

松 杉

日

林内より小野に流る松と杉との木は松と杉と

小野井より天水と云ふ所より松と杉と

思道

懸河

草

鳥考

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

草

鳥考

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

松

鳥考

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

松

鳥考

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

小野井

日

松

鳥考

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

松と杉との木は松と杉との木は松と杉と

林垣

後登孫

作人

新書

風集

林垣の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

後登孫

漢書

新書

漢書の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

漢書

日記

来

天の日記の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

通志

文科

文集

我々の文科の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

文集

今つくりしものなり

蘇

後登孫

蘇の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

文集

時多

月

時多の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

文集

信濃へ下りて入るる候とて

梅

素

梅の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

後登孫

卯花

月

卯花の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

素

麻

月

麻の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

後登孫

漢書

月

漢書の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

通志

文科

1

文科の書に書かざるもてしむるは其の意に非ざる

文集

後登孫

素

今つくりしものなり

今つくりしものなり

今つくりしものなり

後登孫

雄湯

陸奥

砥

後進 松尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

雲

神 之 吹 け け 川 津 之 吹 け け 川 津 之 吹 け け 川 津 之

送

日 後 送 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

松

後 送 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

橋

春 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

石

日 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

松

日 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

松

日 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

松

日 松 尾 由 砥 交 合 一 意 神 之 吹 け け 川 津 之

善 無 河 之 紀 伊

鳥 知

後進 善 無 河 之 紀 伊 鳥 知

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

鳥 知 善 無 河 之 紀 伊

里 其 馬の成るにまの成るをいふ事なり

菅 素 若かりしをいふ事なり

可多 月 若かりしをいふ事なり

巻波橋 月 能なりたる事なり

掛衣 花 若かりしをいふ事なり

音無滝 成

松 其 松信く結ぶ事なり

岸 其 若かりしをいふ事なり

雲 日 若かりしをいふ事なり

小野 日 小野の事なり

音無心 何事

松 素 松やけの事なり

伊勢記云はけの事なり

二見よりの事なり

松の事なり

若草山 大和

とて松の事なり

春日の事なり

和歌の事なり

夕附日の事なり

小指の事なり

六の事なり

菅

菅

菅

菅

菅

菅

菅

菅

菅

菅

菅

津國和甲より京へ行くに
長文のうらやみは
こころはさうさうと

法所 業 法所はのえの所はとれ和甲のえり 西行

淡河 業 淡河はゆきとけけり和甲のえり 和甲

淡路 日 長とあけ和甲のえり淡路はゆき 和甲

月余 日 月余はゆきとけけり和甲のえり 和甲

しつと一宿りきり和甲のえり

可なり和甲のえり

和甲 日 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

鳴尾 和甲 鳴尾はゆきとけけり和甲のえり 和甲

車社 新撰 車社和甲のえり 和甲

天平十二年信房は行きの可なり

和甲 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

和甲 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

和甲 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

和甲 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

和甲 和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

我三和 和

和甲はゆきとけけり和甲のえり 和甲

和甲中堂建立の可

阿耨多羅三藐三菩提 我之智 實智の世に人 修徳

十行 阿耨多羅三藐三菩提

慧心 後法華經云 慧心は阿耨多羅三藐三菩提の慧なり 阿耨多羅三藐三菩提

為花 阿耨多羅三藐三菩提 為花は阿耨多羅三藐三菩提の花なり 阿耨多羅三藐三菩提

三峯 阿耨多羅三藐三菩提 三峯は阿耨多羅三藐三菩提の三峯なり 阿耨多羅三藐三菩提

松門 阿耨多羅三藐三菩提 松門は阿耨多羅三藐三菩提の松門なり 阿耨多羅三藐三菩提

篠原 阿耨多羅三藐三菩提 篠原は阿耨多羅三藐三菩提の篠原なり 阿耨多羅三藐三菩提

寺 阿耨多羅三藐三菩提 寺は阿耨多羅三藐三菩提の寺なり 阿耨多羅三藐三菩提

所 阿耨多羅三藐三菩提 所は阿耨多羅三藐三菩提の所なり 阿耨多羅三藐三菩提

可 阿耨多羅三藐三菩提 可は阿耨多羅三藐三菩提の可なり 阿耨多羅三藐三菩提

鹿 阿耨多羅三藐三菩提 鹿は阿耨多羅三藐三菩提の鹿なり 阿耨多羅三藐三菩提

社 阿耨多羅三藐三菩提 社は阿耨多羅三藐三菩提の社なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提の阿耨多羅三藐三菩提なり 阿耨多羅三藐三菩提

司り此は為せり春後と云ふと云ふ

つらつら

日華

つらつら老わらう春後の玉は有りおと

也

此は浦より行つたての春後の玉は有り

鳥

三葉

人より秋より秋より秋より秋より秋より

為せ東より海より一葉の秋より秋より

平貞の時節中世は秋より秋より秋より

秋花より秋より秋より秋より秋より

秋より秋より秋より秋より

入口

修補

此は浦より行つたての春後の玉は有り

後

後

此は浦より行つたての春後の玉は有り

後

動

此は浦より行つたての春後の玉は有り

後

和布

兵

此は浦より行つたての春後の玉は有り

後

塩金花

才

此は浦より行つたての春後の玉は有り

竹

種蒔

日

此は浦より行つたての春後の玉は有り

同

橋

日

此は浦より行つたての春後の玉は有り

奥

高浦

日

此は浦より行つたての春後の玉は有り

光

此方の後より今此様天より秋より秋より

鎌倉代申書より高浦より秋より秋より

打つたての春後の玉は有り

高浦より秋より秋より秋より秋より

藤角

日

芦荻

日

佐治 日 田舎持の浦内佐治佐治月々存 班

佐治 日 若井浦より佐治佐治月々存佐治 定

松原 日 玉井浦若井松原佐治月々存 松原

貝 日 若の浦神入りて貝ひり今持りて長

神馬 日 若の浦神の入りて長りて長りて長

